



親子で防災キャンプ 平成30年 9月22日~23日 報告書



少し汗ばむくらいの陽気の中、52名（15ファミリー）で開催した『親子で防災キャンプ』。活動のひとつひとつを通して、防災の知識を学び、避難所での生活を身をもって体験していただきました。

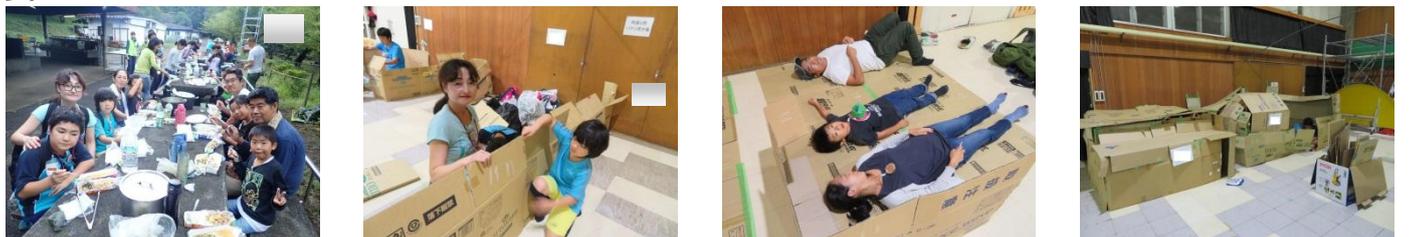


参加者は受付を済ませ、集会室（寝泊まりをする広い部屋）へ。大きな地震に見舞われてやっとの思いで避難所に到着、その後の避難所生活というキャンプの設定。その設定を説明した上で、参加者の緊張を簡単なゲームをしてほぐします。その後、昼食を家族ごとに食べました。



昼食後、大地震の映像を見て、自らの身体を守るシェイクアウト訓練をしました。これで参加者の気持ちがぐっと引き締まります。

夕食は防災クッキングです。メニューはポリ袋を使った豚の生姜焼きと乾物の味噌汁にごはんです。ポリ袋調理は簡単なので、空いた時間に牛乳パックで食器を作りました。料理は「簡単でおいしい！」と好評でしたが、洗い物をなくすためのラップが「食べにくい。」など意見もありました。災害時にいろいろな工夫が求められます。



防災クッキングが終わり、生活空間を作ります。限られた材料（段ボールとテープ）を駆使して、家族はもちろん隣の家族と協力しながら仕上げていきます。「ここ持って。」「ここにテープをはって。」といった具合に、子どもも大人もテキパキと動きました。

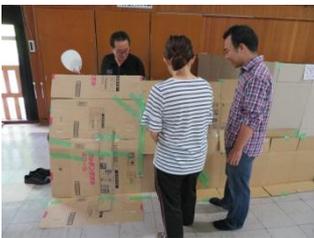


生活空間作りが落ち着いたら、講師として招いた『あいかわ町災害ボランティアネットワーク』の方々に災害時に役立つ展示・解説コーナーを開設していただきました。新聞で作るスリッパや簡易トイレ、湯煎調理のことなどの説明を聞き、体験をします。

ここまでで1日目の活動は終了。おやすみなさいをした後は、生活空間で寝ます。さあ、普段とは異なる環境で満足に寝ることができるのでしょうか。



2日目は体調チェックからはじめます。「トイレに歩く音などが気になり寝られなかった。」「他の方を起さないかと、トイレも躊躇した。」などの感想がありました。



他の家族の生活空間を見学したいとの声があり、見学タイムを設けました。“ここを工夫した・ここが特徴”など見学にきた家族と情報交換をしていました。その後は掃除をして、防災ゲームに備えます。



防災ゲームでは子どもと大人に分かれて防災についての知識を深めます。あいかわ町災害ボランティアネットワークの方々にも協力いただきました。【なますの学校】では、災害時があると便利なものなどについてゲーム形式で解説していただきました。子どもたちは実際に避難訓練をして、地震が起きたときの初動について確認を行います。その後、実際の災害を基にした絵本の読み聞かせをし親と合流しました。



昼食は炊き出し体験、朝に水を入れておいたアルファ米と食堂から提供された豚汁を食べます。最後のプログラムは乾パンかりんとう作り。班で団らんの時間を過ごし、あいかわ町災害ボランティアネットワークの方に相談コーナーを開設していただき疑問に思ったことなどを解消しました。

なかなか普段できない体験をしていただいたため、得られることが多かったのではないのでしょうか。実際に地震が起き、このキャンプでの体験や知識が活かされることのないように願います。しかし、いつ起こるかわからない災害に備えておくことは必要です。その心構えが芽生えたならスタッフ一同幸いです。

文責：石川